



「自ら命を絶つこと」

福岡市副市長

荒瀬 泰子



つい最近、知人のご息が亡くなられたという訃報を聞き、気持ちが沈んでいる。「自殺」だったと聞かされたから。ご息は将来を嘱望され素晴らしい未来へのレールが敷かれている方で羨ましいとさえ思っていた。そういう中で彼はどんな苦悩を抱えていたのだろうか、苦しい時誰か寄り添ってあげる人はいたのだろうか、思い留めさせることはできなかったのだろうか…、いろいろな思いが頭の中を巡る。同じ世代の子を持つ親としてもやるせない。知人には仕事上何度もお会いしているが、今はご息のことは語られない。奥様とは全く顔を合わせなくなった。「自ら命を絶つ」という行為は、残された方々にも永遠に癒されることのない大きな傷を残してしまう。

我が国の自殺対策を見てみると、平成10年から自殺者が急増し、3万人を超えた。その後も減少せず、平成18年には自殺対策基本法が制定され、今後10年間に自殺死亡率を20%減少させる数値目標が自治体に求められた。福岡市は今年7月に人口155万人を突破、政令指定都市で5番目の大都市に成長した。人口増加率、一番。若者率、一番。そのような比較的若い福岡市において10年前、年間320人以上の自殺者が報告されている。年齢別では20代66%、30代53%、40代33%、50代12%と圧倒的に若中年層が多い。自殺の原因・動機の一番は健康問題。そのため若い世代のうつ病対策を

急務とした。若い層に関わりある方やかかりつけ医等をゲートキーパーとし早期に治療につなげていく、学校現場も早期に心の健康づくりに取り組んでいく、相談しやすい環境をつくるなど。多くの関係者による協議会もできた。そして平成25年10月には自殺予防相談ダイヤル「一人で悩まないで」が福岡市精神保健福祉センター内に開設（平日10時から16時）。今では月約100件の相談が入り、それなりに周知された。

しかし、自殺行為は男女とも午前1時から6時が圧倒的に多い。当事者が最も苦しんでいる時間帯を支えている「いのちの電話」に改めてその存在感とありがたさを感じた。追い詰められ誰かに最も話したい時、誰かに引き留めてもらいたい時、「いのちの電話」はどれほど多くの人たちに寄り添って来られたか計り知れない。結果はわからずとも、きっと多くの方々が「いのちの電話」で話をしたことで、次の一日を生きてみようと思ったのではないかと信じている。「いのちの電話」に関わっておられる、または関わってこられた方々に心から感謝の意を表したい。そして、これからも大事な命を守るため力をお貸しください。

最後に10年間で自殺者を20%減らすという目標、関係者のお力で達成できそうだとということをご報告させていただきます。

「自殺防止公開講座」— 自殺!?ちよつと待って!

10月22日(土)午後2時から福岡明治安田生命ホールにて「自殺防止公開講座」が開催されました。

第1部：講演「自殺とマスメディア報道」 講師：高橋祥友氏

第2部：鼎談「自殺やいじめをどのように報道するか」

パネリスト：高橋祥友氏・永田工氏(朝日新聞社記者)・林幹男氏(福岡いのちの電話理事長)



10月22日(土)、福岡いのちの電話・長谷川理事の司会により「自殺防止公開講座」開会。九州大学総長として、また心療内科の第一人者として多方面で活躍されている久保千春氏より、講師・高橋祥友氏が紹介され、講演が行われました。講演は過去の事例をもとに非常にわかりやすく、かつ考えさせられる内容でした。

自殺要因は必ずしも直前に起きた出来事・ストレスばかりではない

自殺は、直前に起きた出来事によるストレスが原因のように思われますが、必ずしもそうではありません。精神疾患であったり、性格的な傾向であったり、ストレスの蓄積といったさまざまな要因が背景にあります。表面的なものだけにとらわれず、さまざまな角度から考察し、予防対策を心掛けることが肝要かと思えます。さて、自殺の要因についてですが、19世紀半ばのイギリスでの研究発表では自殺は伝染するという報告もあります。これなどは報道や告知も大きく関わってきます。文学の世界に傾倒するあまり、影響されることも少なくありません。我が国では「波の塔」という小説で樹海が紹介されたことが記憶にある方もいらっしゃるでしょう。

自殺報道の責任と課題

伝染するという報告では、事実、我が国にも自殺連鎖の事例があります。伊豆の三原山における連続した女子学生自殺や、当時社会的な問題となったアイドル・岡田有希子さんの自殺に誘発された自殺連鎖などが挙げられました。痛ましいことに岡田さんの自殺に関連して30名の方が自殺で亡くなっています。群発自殺に関して、報道の在り方が大きく話題になった件でもあります。心理学の知見とジャーナリズムの現実の接点をどこに見出すかが、非常に重要になって参ります。と言いますのも、現実の自殺報道の方がドラマなどより影響が大きく、メディア報道が群発自殺につながる可能性もあると言えるからです。自殺をトップ記事で扱い、自殺の手段から経緯まで詳しく報道したため、結果的に多くの模倣者を出すことがあるのです。

たかはし よしとも
高橋 祥友氏 プロフィール
1979年金沢大学医学部卒。東京医科歯科大学、山梨医科大学、UCLA、東京都精神医学総合研究所を経て、2002年防衛医科大学校・防衛医学研究センター教授(行動科学研究部門)。2012年より筑波大学教授(医学医療系 災害・地域精神医学)。精神科医、医学博士。

遺書の全文公開は何の意味があるのでしょうか。自殺報道は予防報道に移すべきであると私は考えます。また、それこそが報道の課題と言えるのではないのでしょうか。

第2部では第1部の講演を受け、永田工(朝日新聞報道センター)氏と林幹男(福岡いのちの電話)理事長が加わり、「自殺やいじめをどのように報道するか」について話し合われました。

永田氏からは、17年間報道に携わってきた人間として、自殺を予防する報道の必要性を痛感しており、報道各社プレスコードに基づいて報道を心掛けているとの発言があった。また、自殺情報の受け止め方で群発自殺が起きていることを踏まえ、さらに注意を呼び掛けたいとの主旨であった。一方で、インターネット情報をメディアがセンセーショナルに拡大させている傾向もあるため、倫理観の見直しを図りたいとのことである。

また報道の流れとして、子どもの自殺原因がいじめによるものと報道されると、各社一斉にいじめ自殺報道になることが多く、一步踏み込んだ取材の必要性を説く。子どもの自殺の原因は、必ずしもいじめだけではなく、学校(友人関係)、個人(精神疾患)、家庭(貧困・暴力)などの要因があげられるが、いじめのみの自殺報道が目立つ。

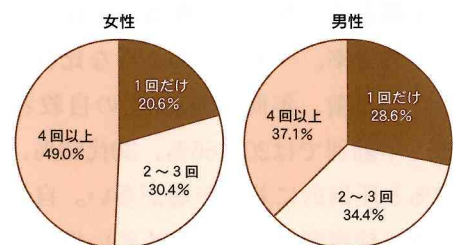
自殺をどう取材し、報道するか? メディアカンファレンスが重要であり、たとえばいじめであれば、社会の病理の側面の一つとしてとらえるなど、自殺イコールいじめといった画一的な報道は避けるべきとの鼎談となった。さらに、予防報道については、自殺報道に加えて続報で予防に向けてのプラスアルファの情報を提供するなどこまやかな配慮の重要性についての提言で締めくくられた。

日本財団 自殺意識調査2016から

2016(平成28)年9月に発表された、日本財団のインターネットによる調査(全都道府県から4万件以上の有効回答数)結果の主な項目は以下の通りです。

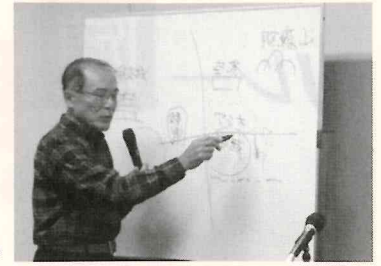
- 4人に1人が「本気で自殺したいと考えたことがある」
- 過去1年以内の自殺未遂経験者は全国で53万人超
- 5人に1人が身近な人を自殺で亡くしている
- 若者層(20~39歳)は、最も自殺のリスクが高い世代
- リスクの高い人は、<身近な人を自殺で亡くした><他者は頼れない><過去に虐待を受けた経験><死への恐怖が薄い>
- 半数以上が自殺で相談しない

自殺未遂経験者(1年以内)の未遂回数





フリーダイヤル 「熊本地震いのちの電話」研修



熊本地県を描きながら話す池田氏

11月30日（水曜日）、第3回全体研修が開催され、相談員68名が参加。「フリーダイヤル『熊本地震いのちの電話』研修」と題し、表題に関する活動の実情や問題点を共有しました。このフリーダイヤルは2016年7月から2017年3月まで実施。福岡いのちの電話もこの事業に参加しており、そのための研修です。

まず、「熊本センターからの被災地現状報告」という内容で、池田幸蔵熊本いのちの電話常務理事・研修委員会副委員長から地震発生当時の模様を話していただきました。ご自身も被災（自宅全壊）され、「ドーン!」という表現での直下型地震の怖さが伝わる話は、臨場感に満ちたものでした。被災者の心身の状況が時間の経過に従って変化していく様子をA4サイズの紙1枚に一言ずつ示されました。まず、「不安」から始まり、不満、悔しい、むなしい、悲しい、諦め、心細い、歯がゆい、惨め、戸惑い、失望、絶望、恨む、苛立ち、苦悩、不気味、落胆、後悔、怒り、寂しい・・・、そして「死にたい」。人々の多様な思いを知り、また、新たな問題の発生などを聞くにつれ、心して受話器を取らなければと感じました。

続いて松尾公孝福岡いのちの電話教育委員長から、「災害によるトラウマ・ケア」の講義。被災者を支える上での留意点、時間の経過とともに変化する被災者の心理などについて資料を基に話していただきました。

その後は参加者が6人ほどのグループに分かれ、電話相談員としての心構えなどについて様々な角度から話し合いました。各グループから以下の内容が発表されました。

- ・想像できない状況を聞いた。苛立ちや不安の中で立ち上がるエネルギーは大変なものだろう。
- ・被災から半年。被災の度合いによって復興の状況が違うと思う。それによって人間関係がうまくいなくなるかもしれない。
- ・絶対がない。いつ何が起こるか分からない不安がある。
- ・喪失感や失望は人によって違う。そこに寄り添えれば・・・。
- ・不満をぶつけられるかもしれないが、聴くことしかできない。
- ・電話で被災のことは話せないかもしれない。身構えず通常通り聴きたい。
- ・その他

グループ討議発表を受けて池田幸蔵氏から、「まず聴くことから始めると良いと思う」との感想を受けて閉会となりました。

フリーダイヤル「熊本地震いのちの電話」
「福岡いのちの電話」における受信件数 258件
(2016年7月1日から11月30日まで)

福岡いのちの電話支援・第29回チャリティゴルフ大会開催

10月20日(木)福岡城東ライオンズクラブ主催で、恒例のチャリティゴルフ大会が行われました。場所は、ザ・クイーンズヒルゴルフクラブ(福岡県糸島市)で、参加者は114名。特に、アウト4番ショートホールは、チャリティホールとして、ティーショットがグリーンにのらなかった場合に募金して頂き、たくさんの参加者にご協力いただきました。

このチャリティホールには、福岡いのちの電話の事業ボランティアがお手伝いをしました。城東ライオンズクラブからは、毎年多額の寄附をいただいています。(写真)



リレー 随 想 第6回

「福岡いのちの電話」教育委員
荒浪 聖



「解き放ち人としてのサポーター」

私が今住んでいる奈多団地には、「お助け隊」という民生委員を中心にしたボランティアの会がある。40年前にできたエレベーターのない5階建ての団地で、高齢化が進み、週2回のゴミ出しも難しい世帯が増えてきて、住民の助け合い活動として始められたが、お助け人も高齢者であることが特徴？ でもある。

さて、表題の「解き放ち人」については、高次脳機能障がい者の通所事業所「翼」に勤めていた時、職員や通ってくるメンバーさん達の関係から思い至ったものである。高次脳機能障がいの原因である脳損傷は、事故等からの外傷性と病気等からの内傷性等があるが、「翼」のメンバーさんはほぼ半々である。どちらにしても命にかかわる急性期は、生命維持のための医療処置が第一で、安定期になるとリハビリテーション等の社会復帰のための訓練が始められる。

ドクターやセラピストが支援者（サポーター）の中心に考えられがちだが、専門的見地からのプログラム等はそうであっても、当事者（本人）にとっての一番のサポーターは家族であることは言うまでもない。「翼」も、家族の方々が、「安心できる居場所づくり」として始められた小規模作業所から、現在はNPO法人地域支援センターとして、定員1日15人（登録者は30人ほど）で活動している。

メンバーさんは、一人ひとりの状況が異なり、週4

日から1日の人まで、また単独で通える人、家族や付き添いサービスを利用する人など様々な形で通っている。職員は4人、家族ボランティアも作品づくりの作業などに参加してくれている。マンションの一室で狭いため多くの人を受け入れるのは困難であるが、笑顔と会話にあふれ、日々のプログラムを展開している。

時々自分の患者を依頼してこられる医師から、「翼」に行き始めた人はどうしてあんなに明るくなって、安定し、ステップアップを考えられるようになるのか？と問われたことがあるが、一番の力はメンバーさん同士の受け止めと関係があると回答した。注意力や記憶力、集中力等に程度の差こそあれ障がいがある「あるがままの自分」をカミングアウトでき、受け止められる安心感が心を解き放ち、希望も言えるようになり、家族もまたいろいろな事柄から解き放たれ、家庭内でも高次脳機能障がいへの理解も進みよい結果を生みだしていると思われる。

解き放ち人の役割を果たしているサポーターは、専門性に基づいた教え人や治療人・訓練人だけではなく職員や家族、メンバーさんも含んでおり、共に歩んでいるのだと、いつも伝えている。

いのちの電話の相談員が、この「解き放ち人」であってほしいと願っている。

福岡いのちの電話チャリティコンサート 弦楽演奏の夕べ

「いのちの響き」を最上のキャストでお届けします。
2017年3月10日(金)午後7時開演
都久志会館ホール(福岡市中央区)
入場料 2,000円(全席自由)

〜〜 演目 〜〜

ベートーヴェン 弦楽三重奏曲 第1番 変ホ長調 作品3
ブラームス 弦楽四重奏曲 第3番 変ロ長調 作品67



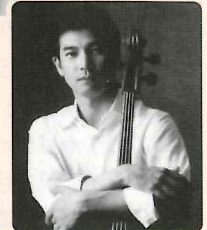
ヴァイオリン
原 雅道



ヴァイオリン
大山 佳織



ヴィオラ 大山 平一郎



チェロ
原田 哲男



相談活動の心身を一新!

リフレッシュワーク

11月12日(土)、第37・38期生を対象に「リフレッシュワーク」が行われました。この研修は、認定後電話当番に慣れてきた相談員に、相談活動も気持ちもリフレッシュしていただくという研修です。既に、33・34期生、35・36期生に対しては一昨年、昨年と実施しており、今回が3回目。研修企画から実施まで当該期生の手づくりワークです。参加の感想を述べていただきました。

楽しくリフレッシュ研修

37期生 T.S

相談員として電話を取り始めてはや3、4年が経ち、慣れてくるにつれ、当初とは別の戸惑いや疑問も生まれてきました。そんな中、リフレッシュ研修という思いがけない機会が与えられ、いくばくかの期待を込めて臨みました。

参加者は10名。講師を福岡いのちの電話教育委員長の松尾公孝先生にお願いしました。午前中に、野口体操。床に寝転んで、二人一組で足や手を伸ばしてもらったり体を捻ったり。それを相手にしてもらうことで、体の奥まで伸ばすことができ、全身の緊張が大きく放たれ、深い解放感を味わうことができました。きっと、この解放感が心の安らぎにつながるのでしょう。松尾先生のお話によると「コミュニケーションは、言語を

介するものだけでなく、体からの発信、感知もある」。体がリラックスすることにより、コミュニケーションはよりスムーズにいくのでしょうか。体感して「納得」でした。

午後からは、37期、38期生とはいえ、名前も知らない方もいらっしゃるため、名前を覚えていく楽しいゲーム。次に、背後からの声かけを、自分に向けられたかどうかを判別するゲーム。全身を耳にして聴く割には、なかなか的中しませんでした。その後、実際の相談事例の中から、二組に分かれてロールプレイ。先生の講評。最後に一人ずつの振り返りで和やかに終了しました。

朝に研修が始まった時は、初めてお会いする方もいましたが、終わる頃にはすっかり打ち解けて、絆のようなものを覚えました。この絆はこれからの相談員活動に少なからず力となることでしょう。

相談員養成講座 実施中です

10月5日の開講式を終えた第42期生15名が、毎月2回のペースで養成講座を受講しています。11月には岡田健一氏を講師に迎え、1泊2日の宿泊研修「人間関係訓練Ⅰ」を行いました。内容は、感覚を磨くワーク、からだで感じるワーク、自己表現のワーク、話をからだで受け止めるワークなどでした。受講生一同は、からだと五感を使ったワークで、一気に打ち解けたようでした。

感動に満ちた「なら大会」

9月15日から17日まで奈良県天理市で開催された「第34回いのちの電話相談員全国研修会なら大会」に「福岡いのちの電話」から17名が参加しました。多彩な講師の講話、分科会に加え、お寺での宿泊や、寺社訪問など様々な企画内容に参加者一同、感激して戻りました。何より、温かな「奈良いのちの電話」の皆さまの歓迎が心に残りました。ありがとうございました。



ご援助ありがとうございます

寄附感謝報告 2016年9月1日～2016年11月30日（敬称略・順不同）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。
また、福岡市在住の方は福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。

千人会

久能治子	10,000	小野恵子((医)小野病院)	10,000	(医)江頭会 さくら病院	10,000
中島昌子	10,000	田中俊孝(たなかメンタルクリニック)	10,000	竹野純一	10,000
濱生正直	10,000	島松昌由(島松循環器内科クリニック)	10,000	武部道孝(武部道孝税理士事務所)	10,000
浦ツギ子	20,000	皆良田研介((医)皆良田眼科医院)	10,000	江上裕子	20,000
内村英幸	10,000	岩永安弘	10,000	神宮純江	10,000
川原 健	10,000	石蔵富士子	10,000	世良洋子(弁護士)	10,000
清水 浩	10,000	阿利澄雄	10,000	牛島 進((医)健進会 牛島歯科医院)	10,000
佐藤文彦	10,000	椛島敏雄(福岡南法律事務所 弁護士)	10,000	田中和子	10,000
木上勝征(弁護士)	10,000	田中恭之助	10,000	野島一彦	50,000
佐藤隆昭(成道寺)	10,000	乙藤秀臣	10,000	岡田象二郎((医)岡田こどもクリニック)	10,000
(有)吉塚酒店	10,000	吉田恵子	10,000	金藤哲明	10,000
朱雀達城(真行寺)	10,000	林 幹男	20,000	井原洋子	10,000
濱 孝明	10,000	高石彰也	10,000	本郷ふみ子	10,000
小森田禮子	10,000	楠原正一	10,000		
上田章雄	10,000	斉藤貴子	10,000		
小林恒善	10,000	秀島理絵	10,000		
佐藤 至(佐藤・林法律事務所)	10,000	井上悦子	10,000		
(医)春日病院 理事長 武田誠司	10,000	井上 博	10,000		
岡田修一	10,000	久能治子	10,000		
		讚井靖彦	10,000		

賛助会

井上真知子	2,000
吉岡まゆみ	4,000
尾崎恵子	5,000
江口祐子	5,000
中野 茂	10,000



坂本朱美	3,000	匿名	10,000	久保カヨ子	5,000
片多 順	2,000	藤田宗春	20,000	匿名	3,000
高原信一	3,000	(株)CYS	210,600	増田有資	99,999
西宗寺 代表 藤 玄洋	5,000	原田元子	2,000	執行好子	20,000
今任貴教	10,000	福永昭子	20,000	松原妙子(弁護士)	10,000
五斗みち子	5,000	若杉山 文殊院 高瀬覚照	5,000	川島学園 福岡舞鶴高等学校 福岡舞鶴誠和中学校	39,870
		山崎一馬	10,000	福岡城東ライオンズクラブ	400,000
		(株)近代プラント(石田 保)	10,000	カトリック大牟田教会(井手公平)	3,000
		濱 孝明	20,000	笹丘カトリック教会	10,000
		貞池龍彦(大濠ランナーズ)	2,000		
		湯川久子(弁護士)	10,000		
		川寄弘詔	10,000		
		藤原玄夫	3,000		
		林 幹男	80,000		
		納涼寄席 募金箱(8/5分)	3,245		
		自殺防止公開講座 “ (10/22分)	14,253		
		杉本 登(杉本歯科医院)	10,000		

法人会

拓新産業(株)	30,000
(株)九電工	100,000

寄附金

金子英次	20,000
旗島淑子	10,000
勝木昭代	6,000
林 幹男	10,000
イタイ ケイスケ	10,000

支援自販機募金

(株)西日本新聞社本社分	44,662
(株)西日本新聞社製作センター分	64,740
(財)恵愛団(九州大学病院内)	105,627

ご寄附いただく場合は下記の振込先までお願いします。

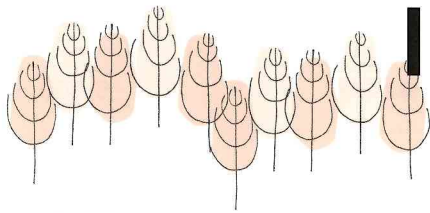
銀行口座	口座名義 社会福祉法人 福岡いのちの電話
	福岡銀行赤坂門支店 (普) 1147617
	西日本シティ銀行天神支店 (普) 2131458
郵便口座	福岡いのちの電話千人会(千人会) 01710-1-36652
	福岡いのちの電話(賛助会員・一般寄附) 01720-9-1037

千人会 1口1万円/年(何口でも)
 賛助会 1口2千円/年(//)
 法人会 1口3万円/年(//)

ご面倒をおかけいたしますが、よろしく願い申し上げます。

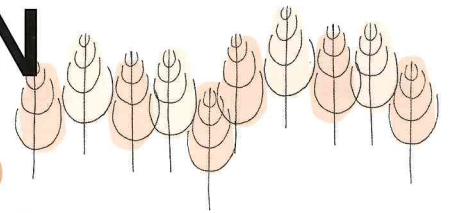
税制の優遇措置があります

社会福祉法人の許可を受けておりますので、寄附をされた場合、法人の場合は損金扱いに、個人の場合は年間所得の25%まで寄附控除が受けられるといった、税制上の優遇措置の対象となります。また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



INFORMATION

インフォメーション



日誌 2016.9.1~2016.11.30

- | | | |
|--|---|---|
| <p>9月</p> <p>1 第41期生養成講座閉講式</p> <p>5 広報活動班会</p> <p>7 研修運営班会</p> <p>10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」自主研修「ケースと私・事例研究」</p> <p>11 九州地区事務局長会議出席</p> <p>13 相談活動運営委員会手づくり会</p> <p>14 第6回教育委員会事務局会議</p> <p>15~18 第34回いのちの電話相談員全国研修会なら大会出席</p> <p>17 社会資源研究班会</p> <p>18 日本電話相談学会第29回大会(札幌)出席</p> <p>20 第6回理事会</p> <p>24~25 電話相談員養成サポーター研修(講師:野島 一彦氏)</p> <p>27 自主研修「FINDカフェ」手づくり会</p> <p>10月</p> <p>1 会報「127号」発行
ハートフルフェスタ福岡2016講演会</p> <p>2 ハートフルフェスタ福岡2016交流会</p> | <p>5 第42期生養成講座開講式(講師:林 幹男氏)</p> <p>8 相談員集会
自主研修「ケースと私・事例研究」</p> <p>10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」</p> <p>12 研修運営班会</p> <p>14 自主研修「集談会」</p> <p>18 事務局会議
会報企画会議</p> <p>19 第42期生養成講座(講師:瀬里 徳子氏)
第7回教育委員会</p> <p>20 第7回理事会
福岡城東ライオンズクラブ・福岡いのちの電話支援チャリティゴルフ大会</p> <p>22 自殺防止公開講座(講師:高橋 祥友氏)
福岡いのちの電話開局32周年記念日の集い</p> <p>25 手づくり会
自主研修「FINDカフェ」</p> <p>26 社会資源研究班会
社会福祉法改正研修会出席</p> <p>31 相談活動運営委員会</p> <p>11月</p> <p>1 曜日班世話人会</p> | <p>2 第42期生養成講座(講師:林 幹男氏)</p> <p>8 手づくり会</p> <p>9 第42期生養成講座(講師:山崎 一馬氏)</p> <p>10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」</p> <p>12 リフレッシュ研修(第37期生、38期生)
(講師:松尾 公孝氏)
研修運営班会</p> <p>14 広報活動班会</p> <p>15 相談活動運営委員会</p> <p>16 第8回教育委員会事務局会議</p> <p>19~20 第42期生養成講座宿泊研修「人間関係訓練Ⅰ」
(講師:岡田 健一氏)</p> <p>22 手づくり会・クリスマス献金
お願いカード作成</p> <p>24 第8回理事会</p> <p>25 第41期生3カ月ミーティング</p> <p>28 広報活動班会</p> <p>30 第3回全体研修(フリーダイヤル研修を兼ねる)
受信資料検討班会
社会資源研究班施設訪問(ミズ・リリーフ・ライン)</p> |
|--|---|---|

【編】集【後】記【】

新年を迎え、方々それぞれに新たな歩みを刻み始められたことと思います。災害や事故、大きな困難に遭遇した日々を振り返れば、今年こそは何事もなく平穏であるようにと祈らずにはいられません。さて、その災害時にボランティアが話題になることがあります。奉仕活動の形態はさまざまですが、ボランティアとは自らが喜んで行うものという定義を聞いたことがあります。仕事・学業に関わらず、貴重な時間や物資を提供し、自分以外の方々のためにエネルギーを喜んで費やすこととあります。自分以外の誰かの幸せを願うことほど豊かな人生はないのかもしれませんが。ボランティアは、決して金銭では買えない幸福を得ているのかもしれませんが。とは言え、悩みや困難も少なくありません。ボランティアをお支えいただく方のお力添えあつての活動です。本年も皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げますとともに、変わらぬご支援・ご理解を賜りますようお願いいたします。

2016年9月~2016年11月

電話受付件数

受付件数 3,704件

延相談員数 958人
(日平均10.5人)

延受信時間 116,151分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7-2F
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス
<http://www.f-inochi.org/>

発行人 林 幹 男
編集人 高橋 みゆき



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。